

お支えをいただいている皆様へ

平成 28 年 4 月 14 日午後 9 時 26 分、私は、九州ラウンドの最中、宮崎市内にて、いまでは前震と呼ばれている最大震度 7、M6.5 の地震に、次いで 16 日午前 1 時 25 分、本震と呼ばれるさらに大きな揺れに遭遇しました。この時ばかりは私もこれは本当にまずい！と思いました。宮崎においてさえそのように感じた地震は、震度こそ 6 強でしたが M7.3 という阪神淡路大震災と同規模の大きな地震となりました。テレビを通じて続々と様々な情報が伝えられる中、私自身のいまとるべき行動について、諸々の状況を考えると本当に迷いましたが、鹿児島、福岡、広島と続く今回の行程を変更させて頂いても熊本で理学療法士として、また夫や父親としての行動をとるべきと思い、熊本に向かうことを決めました。

なんとか宮崎から鹿児島に辿り着いたものの、熊本への交通手段は、レンタカーを含めてすべて停止していたことから、鹿児島県理学療法士連盟の村山会長、鹿児島県理学療法士協会の赤崎事務局長、古賀先生のご厚意に甘えて熊本まで車両で送り届けて頂きました。

我が家へ向かう途上の熊本市内の様子は、随所に地震の大きさを示すものがたくさんありました。中でも熊本県民の誇りであり、シンボルでもある熊本城の大規模な損壊を見たときには胸が痛みました。

17 日、もっとも被害の大きかった益城地区を訪れてみましたが、道路は陥没し、あるいは隆起して寸断されており、瓦や壁が落ちたものは幸運な方で、完全に家屋が倒壊しているものも多くありました。避難している人が今日現在で 10 万人強と報告されています。DMAT は発災後速やかに活動を開始しましたが、JRAT はこれからが本番です。報道でもエコノミークラス症候群、肺塞栓症の発症が報告され始めました。いま、理学療法士をはじめリハビリ専門職が十分な機能を果たせば多くの人を救うことができます。

仲間の皆様、諸事ご準備頂いていたところと思いますが、私を理学療法士として育てた熊本の地、そして熊本の県民と共にありたいと願う心情をご理解頂き、この度の私のわがままをお許し頂きますようお願いいたします。

なお、現状で水や食料が十分でないとの声を多く聞きますが、これから必要なものなど変わってくることも想定されますので JRAT との協働の上で改めて仲間の皆様にご協力、ご支援をお願いすることもあろうかと思えます。その際にはどうぞ理学療法士ここにあり！との強い意志にてご協力頂きますようお願いいたします。

皆様よりいただいておりますご支援に心から感謝を申し上げます。

平成 28 年 4 月 18 日

小川 かつみ